

■ラテックス法試薬の基本性能

日立7180形自動分析装置を用いて新規CK-MB蛋白量測定試薬の基本性能を検証した。同時再現性(n=20)は、CK-MB濃度 5.0ng/mL、10.9ng/mL、52.8ng/mLにおいて、それぞれCV(%)が3.8%、2.2%、1.6%であった。CK-MB濃度 180ng/mLまで直線性が得られた。共存物質の影響も特に認められなかった。また、アイソザイムの特異性については、CK-MMに対する交差反応は認められず、CK-BBに対する交差反応もほとんど認められなかった。本法とスフィアライトCK-MB(化学発光酵素免疫法：和光純薬工業)の相関係数 $r=0.997$ 、回帰式 $y=0.980x-0.57$ であった。また、本法と免疫阻害法(A社)との相関係数 $r=0.944$ 、回帰式 $y=1.193x-18.1$ 、免疫阻害法(B社)との相関係数 $r=0.989$ 、 $y=0.973x-5.3$ であった。

■まとめ

ラテックス凝集法に基づくCK-MB蛋白量測定試薬「Lタイプワコー CK-MB mass」はCK-MBに対する特異性が高く、しかも汎用自動分析装置を用いて10分間で測定できることから、胸痛患者の緊急検査法として役立つことが期待される。

本日は、活性測定法(免疫阻害法)、蛋白定量法(化学発光法)、ラテックス法での測定値を比較し、活性測定法(免疫阻害法)での非特異的な反応事例を挙げながら、ラテックス法の有用性について述べる。

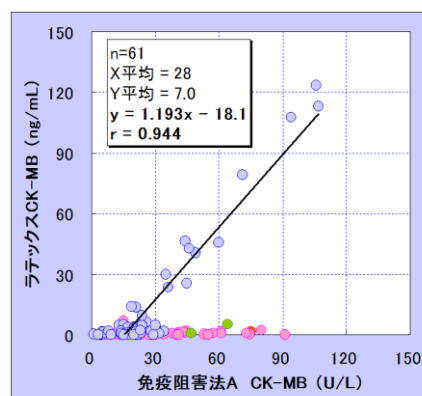
資料請求先：03 (3270) 9134

和光純薬工業株式会社
臨床検査薬カスタマーサポートセンター

同時再現性

	ng/mL		
	試料1	試料2	試料3
N	20	20	20
Average	5.0	10.9	52.8
Range	0.9	1.0	2.7
Max	5.5	11.6	54.3
Min	4.6	10.6	51.6
SD	0.19	0.24	0.83
CV(%)	3.8%	2.2%	1.6%

CK-MB 活性法と蛋白量との血清相関 ①



CK-BB 事例

測定結果	CK-MB 免疫阻害法 U/L	CK JSCC対応法 U/L	CK-MB ラテックス比濁法 ng/mL	CK-MB 化学発光法 ng/mL
検体①	50	83	3.9	2.68

CKアイソザイムの泳動位置

